

おおぐさ夢プラン

平成31(2019)年3月

大草自治振興会
(将来の大草地域を創る会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地域の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	土地利用, 道路・交通	5
4	主要公共公益施設	5
2章	まちづくりに関するアンケート調査結果の概要	7
1	住民(16歳以上)	7
2	小中学生(小学4年生以上)	18
3章	地域の魅力・資源と問題点・課題	22
1	地域の魅力・資源	22
2	地域の問題点・課題	24
4章	まちづくり計画	25
1	地域の将来像	25
2	まちづくりの基本方針	27
3	まちづくりの基本計画	28
4	計画の推進体制	38
資料	計画策定の取り組み	40

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

大草地域は、大草、平坂、姥ヶ原の3つ大字で構成されており、広島空港、山陽自動車道河内及び本郷インターチェンジに近接するとともに、(主)本郷大和線(広島中央フライングロード)が地域内を南北に走り、高速交通条件に恵まれています。

また、農業が盛んで野菜・果実の特産品が多いほか、観光農園及びスポーツレクリエーション施設など観光資源が豊富です。

しかし、人口は若年層を中心とした流出、高齢化・少子化が進行して地域活動の担い手が不足してきているとともに、公共公益施設及び商店が減少して、地域の活力が失われてきています。

こうした状況を打開するためには、自分たちの地域は自分たちで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力し、目標を持ってまちづくりに取り組むことが重要です。

このため、大草自治振興会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りを持ち、自慢できるまちづくりを目指して「おおぐさ夢プラン」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「おおぐさ夢プラン」は、大草自治振興会が地域の各種団体などと連携して取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などでまちづくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、大草地域出身者、都市住民など多様な方からの幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

大草自治振興会では、各種団体の代表者などの参加のもとに「将来の大草地域を創る会」を組織し、「おおぐさ夢プラン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、住民(16歳以上)及び小中学生(小学4年生以上)の方へのまちづくりに関するアンケート調査と大草地域まちづくり意見交換会(ワークショップ)を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、2019～2023年度までの5年間とします。

1章 地域の概要

1 位置

本地域は、三原市大和地域の南部に位置しています。

地域中心部（大草公民館）から主要な場所まで車を利用するの所要時間は、三原市中心部（三原市役所）まで約35分です。また、広島空港まで約15分、山陽自動車道河内インターチェンジまで約20分、本郷インターチェンジまで約25分、JR山陽新幹線・山陽本線三原駅まで約35分です。

図 大草地域の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地域の総人口を住民基本台帳で見ると、平成30（2018）年で1,204人になっており、過去5年間で186人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成30（2018）年で0～14歳94人、15～64歳533人、65歳以上577人になっており、高齢化率は47.9%になっています。

年齢別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳及び15～64歳は減少、65歳以上は微減となっています。

表 人口の推移

（単位：人，％）

区 分		実 数			増減数	
		H20 (2008)年	H25 (2013)年	H30 (2018)年	H25(2013)－ H20(2008)	H30(2018)－ H25(2013)
実 数	0～14歳	127	120	94	△ 7	△ 26
	15～64歳	771	691	533	△ 80	△ 158
	65歳以上	617	579	577	△ 38	△ 2
	合 計	1,515	1,390	1,204	△ 125	△ 186
割 合	0～14歳	8.4	8.6	7.8	－	－
	15～64歳	50.9	49.7	44.3	－	－
	65歳以上	40.7	41.7	47.9	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

(2) 世帯数の動向

本地域の総世帯数を住民基本台帳で見ると、2018（平成30）年で504世帯になっており、過去5年間で40世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は2018（平成30）年で2.4人になっており、過去5年間で0.2人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H20 (2008)年	H25 (2013)年	H30 (2018)年	H25(2013)－ H20(2008)	H30(2018)－ H25(2013)
世帯数（世帯）	530	544	504	14	△ 40
世帯人員（人）	2.9	2.6	2.4	△ 0.3	△ 0.2

注：世帯数は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

(3) 人口の将来見通し

平成25(2013)年から平成30(2018)年の人口（住民基本台帳）の推移が継続した場合の人口の将来見通しをみると、計画策定年次の平成30(2018)年から10年後の2028年には879人になり、平成30(2018)年と比較して300人以上減少するものと見込まれます。

年齢3区分別人口をみると、各年齢層ともに減少するほか、高齢化率は2028年には55%に達するものと見込まれます。このように、今後も人口減少及び少子化・高齢化が進み、地域活力の低下が懸念されます。

注：人口の将来見通しは、平成25(2013)年から平成30(2018)年の男女別5歳階級別の人口の推移率を求め、その推移率が将来も継続するものとして推計しました。

(例：平成25(2013)年の女性の0～4歳人口5人→平成30(2018)年の女性の5～9歳人口4人の場合は、推移率が0.800になります。)

図 年齢区分別人口の将来見通し

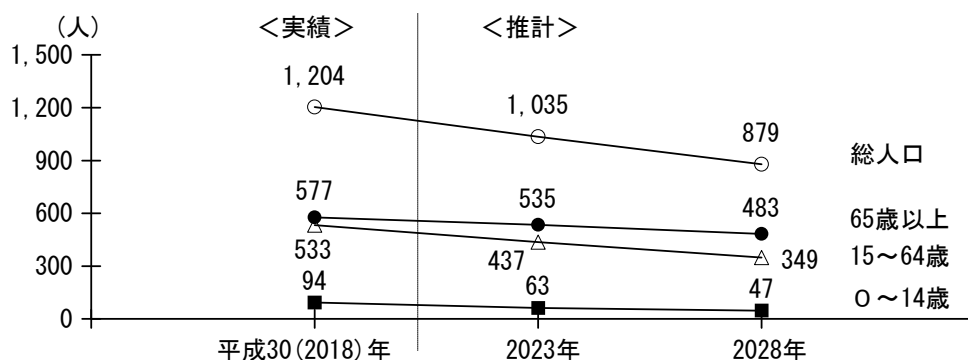
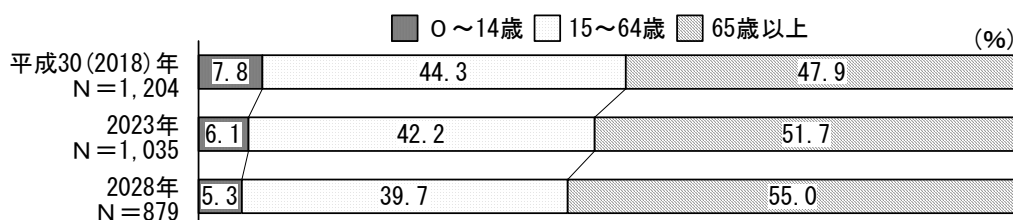


図 年齢区分別人口割合の将来見通し



3 土地利用，道路・交通

本地域は，大草川，細川，平坂川及び川峡川などの小河川沿いに農地・集落が主に分布しており，その周辺を山並みが囲んでいます。

道路網は，地域北部を国道486号が東西に走るとともに地域西部を(主)本郷大和線（広島中央フライトロード）が南北に走り，この2路線が主要な道路になっています。この道路を通じて，三原市中心部，山陽自動車道河内インターチェンジ及び本郷インターチェンジ，広島空港と連絡しています。そのほかの主要な道路として，(一)大草三原線及び(一)下徳良本郷線が走っています。

公共交通機関としては，地域内を走るバス路線はありませんが，大和ふれあいタクシー（予約乗合タクシー）が運行して和木及び下徳良の中心部と連絡しています。

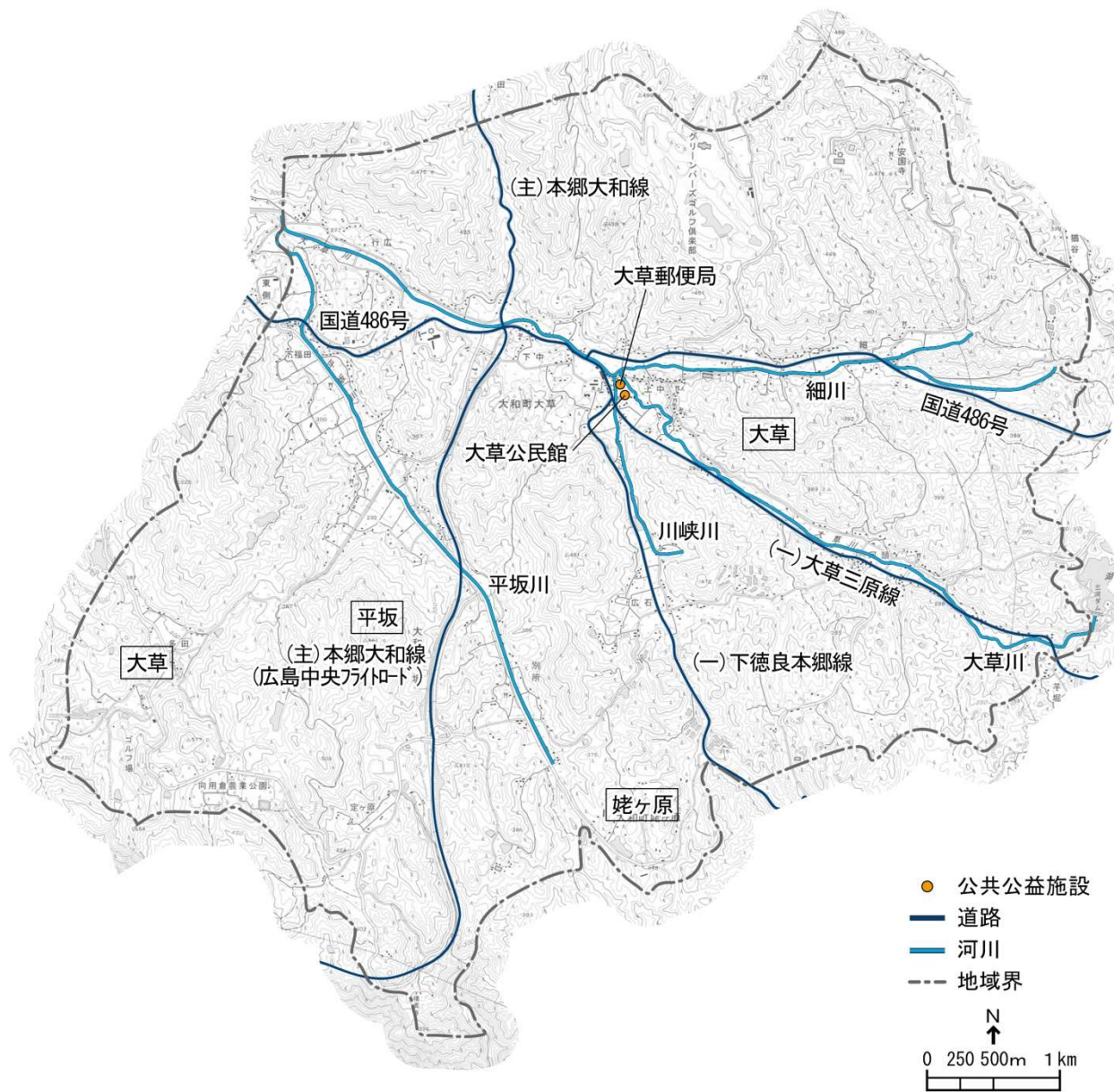
4 主要公共公益施設

本地域には，生涯学習・集会施設としての大草公民館があるほか，大草郵便局があります。

表 大草地域の公共公益施設

区 分	名 称
生涯学習・集会施設	大草公民館
その他	大草郵便局

図 大草地域の公共公益施設



2章 まちづくりに関するアンケート調査結果の概要

本調査は、住民（16歳以上）及び小中学生（小学4年生以上）の方のまちづくりへの意見を把握し、「おおぐさ夢プラン」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は住民（16歳以上）の方807件、小中学生（小学4年生以上）の方41件でした。

1 住民（16歳以上）

(1) 回答者自身について

回答者の性別は「男性」45.5%、「女性」49.8%で女性の割合が高くなっています。年齢は65歳以上の方が5割以上でした。

家族構成は二世帯（子どもと同居+親と同居）が41.5%で最も割合が高くなっています。一方、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合は30.0%になっています。

図 性別

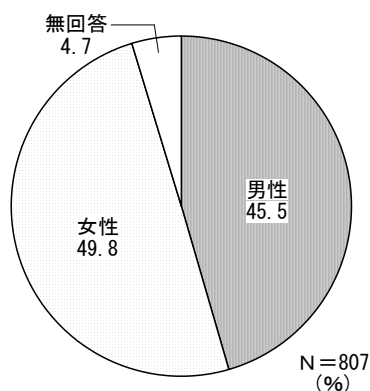


図 年齢

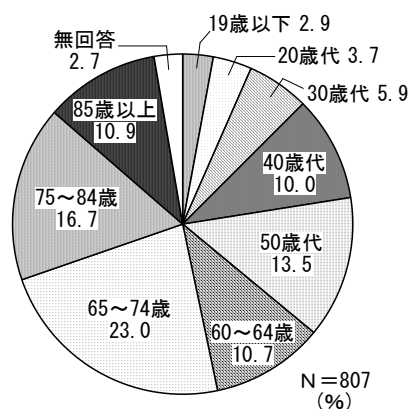
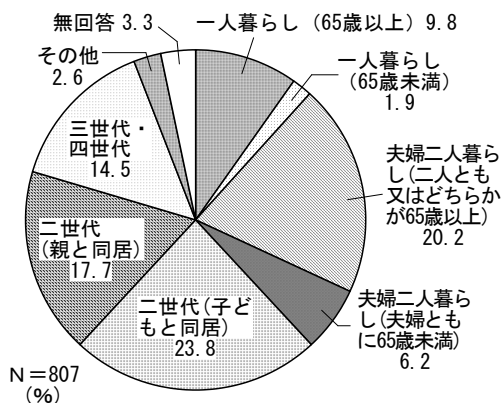


図 家族構成

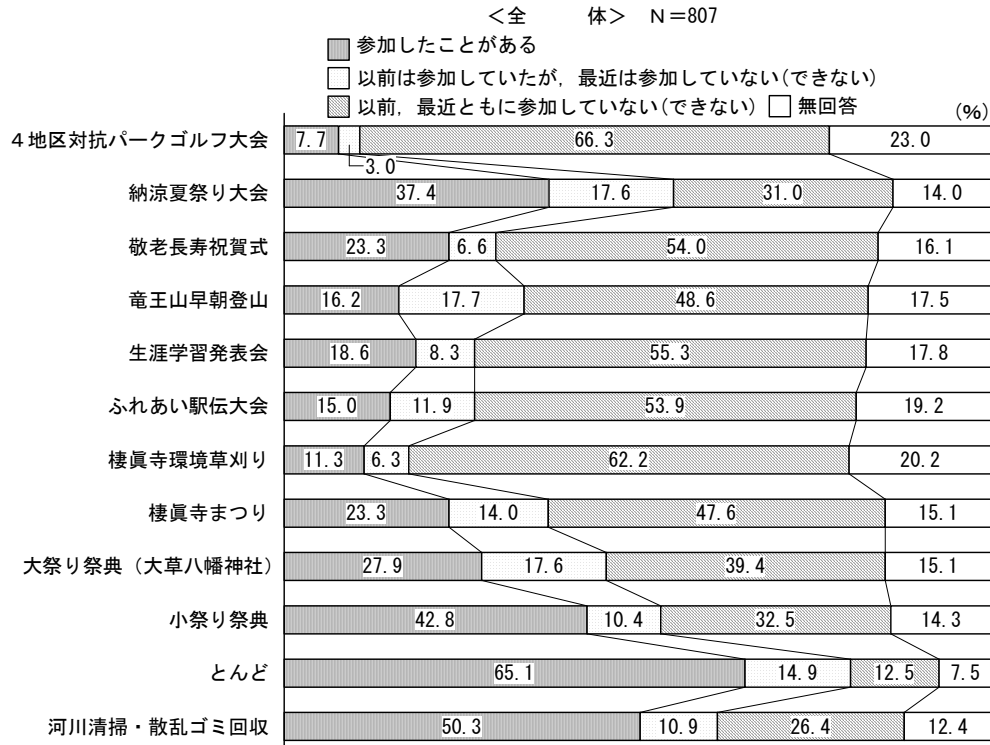


(2) 行事・活動への参加状況と満足度

ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「とんど」が65.1%で最も割合が高く、次いで「河川清掃・散乱ゴミ回収」50.3%、「小祭り祭典」42.8%、「納涼夏祭り大会」37.4%の順で、これら4項目で3割以上になっています。

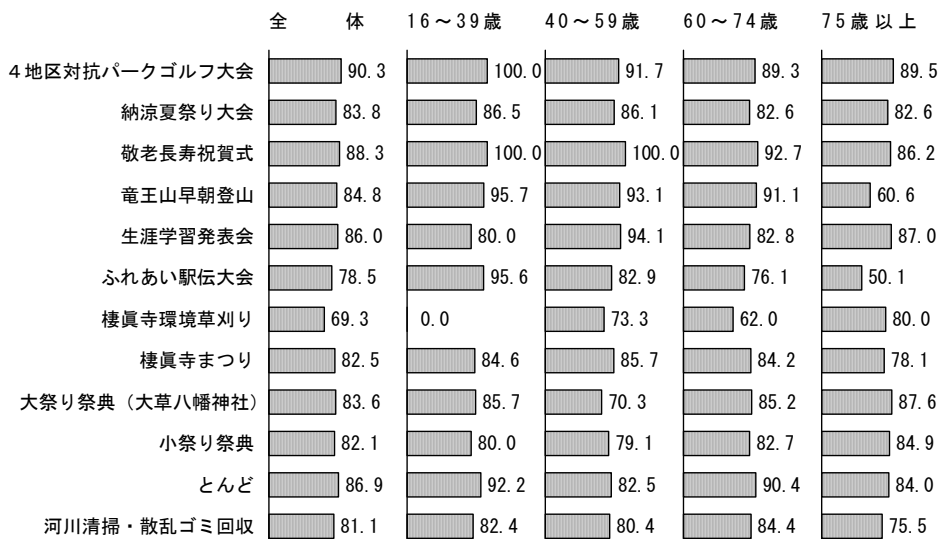
図 行事や活動への参加状況



イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ「参加したことがある」と答えた人の満足度（「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合）をみると、80%台9項目、90%台、70%台及び60%台1項目で、「棲真寺環境草刈り」及び「ふれあい駅伝大会」の満足度がやや低くなっています。

図 行事や活動の満足度



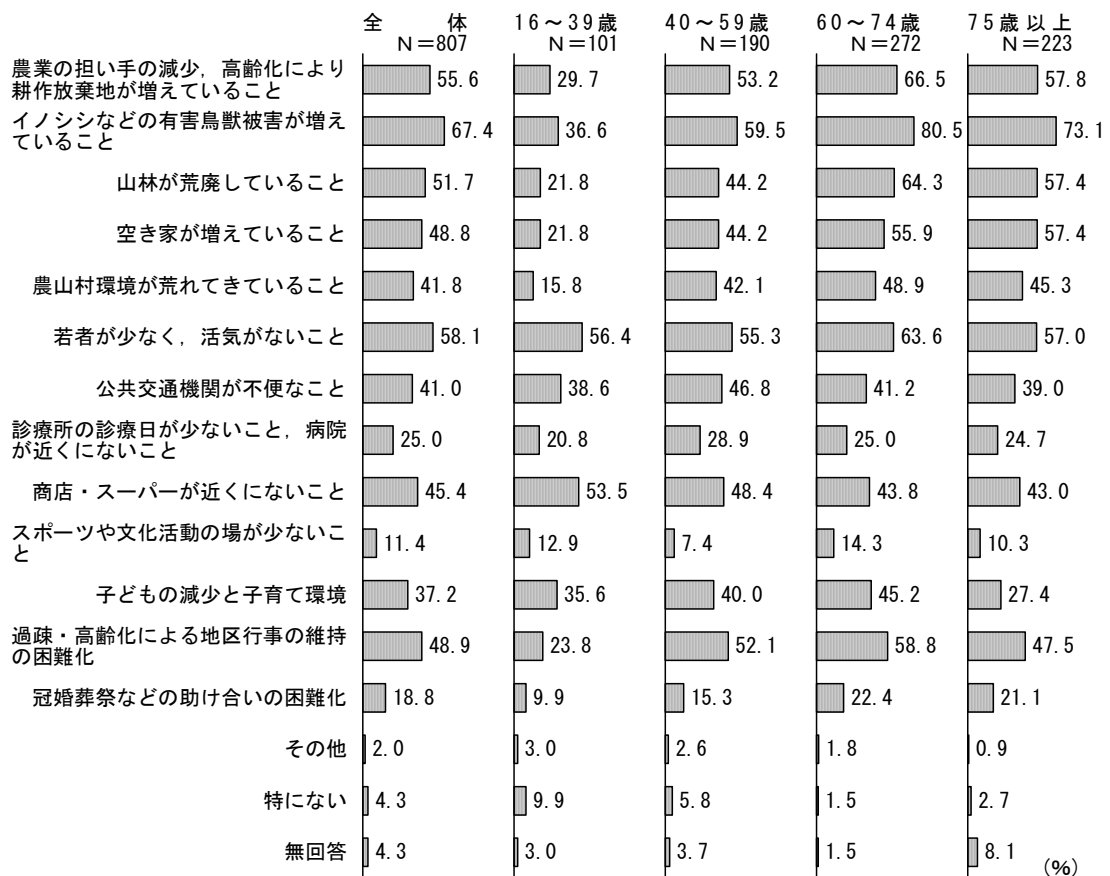
(3) 地域の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地域の現状や将来のことでの不安に思っていること

地域の現状や将来のことでの不安に思っていることは「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が67.4%で最も割合が高く、次いで「若者が少なく、活気がないこと」58.1%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」55.6%、「山林が荒廃していること」51.7%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」48.9%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では「空き家が増えていること」48.8%、「商店・スーパーが近くにないこと」45.4%、「農村環境が荒れてきていること」41.8%、「公共交通機関が不便なこと」41.0%、「子どもの減少と子育て環境」37.2%などの順です。

図 地域の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）

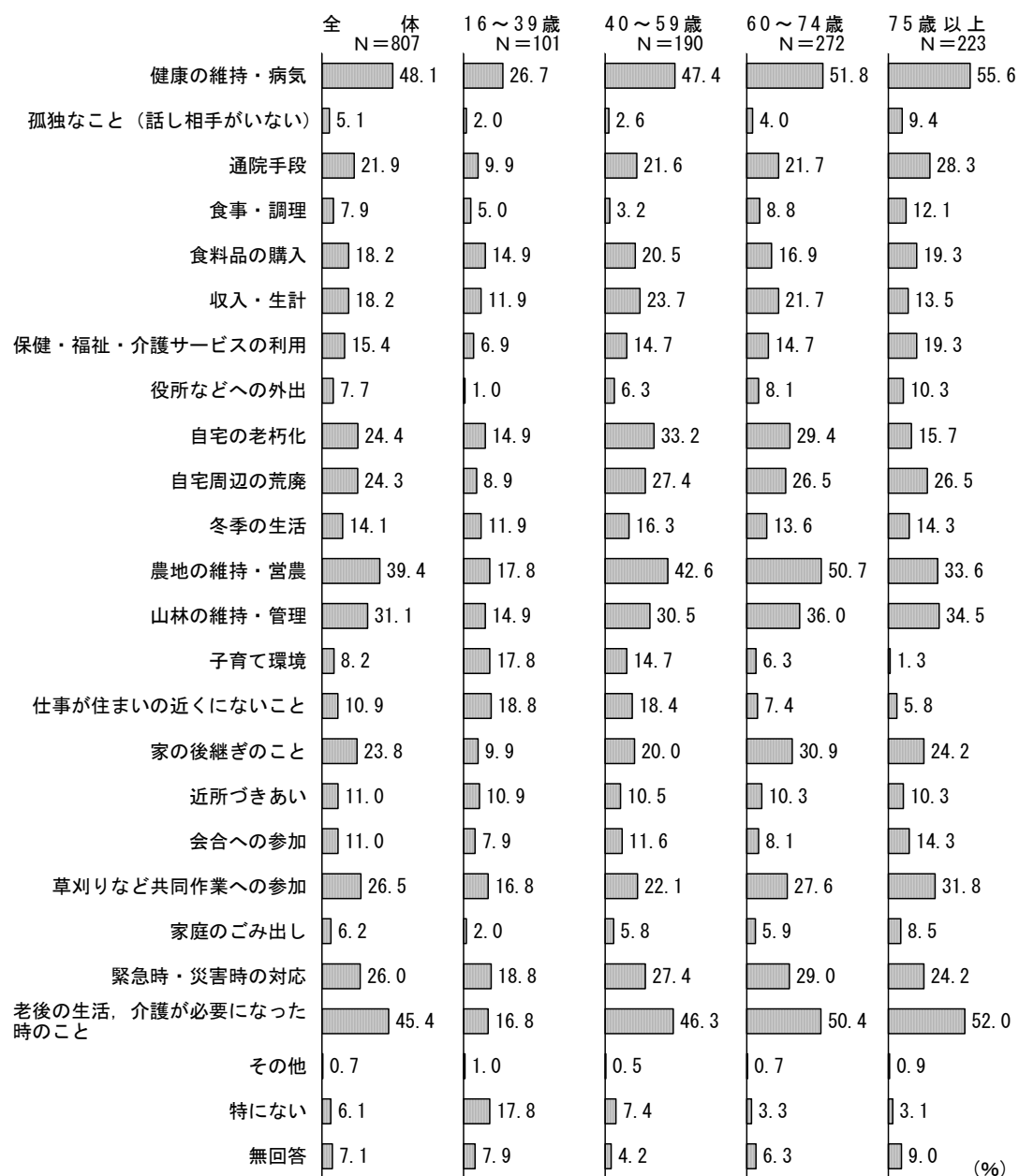


イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは「健康の維持・病気」48.1%、「老後の生活、介護が必要になった時のこと」45.4%で、この2項目の割合が高くなっているほか、「農地の維持・営農」39.4%、「山林の維持・管理」31.1%、「草刈りなどの共同作業への参加」26.5%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では「緊急時・災害時の対応」26.0%、「自宅の老朽化」24.4%、「自宅周辺の荒廃」24.3%、「家の後継ぎのこと」23.8%、「通院手段」21.9%などの順です。

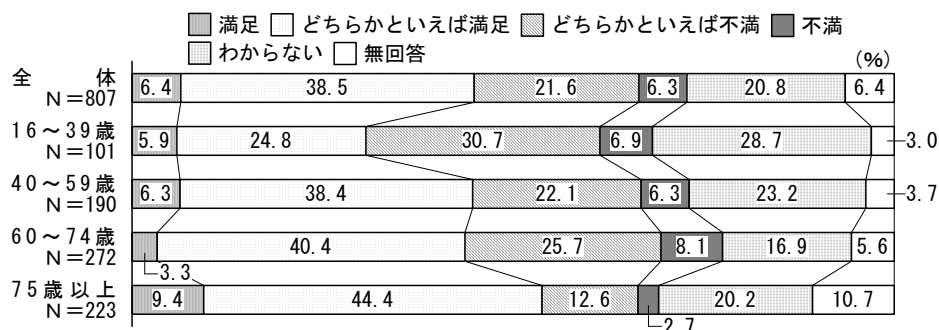
図 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地域の生活環境の評価

地域の生活環境については「満足」6.4%、「どちらかといえば満足」38.5%で、これらを合わせた生活環境に満足している人は44.9%です。

図 地域の生活環境の評価

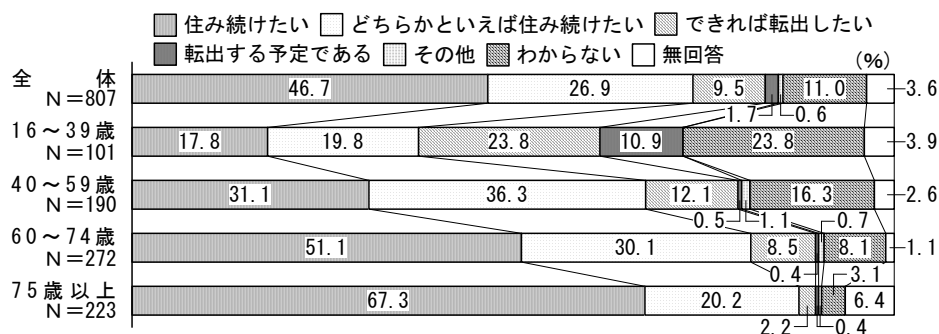


エ 地域への今後の居留意向

地域への今後の居留意向は「住み続けたい」46.7%、「どちらかといえば住み続けたい」26.9%で、これらを合わせた地域へ住み続ける意向の人は73.6%です。

一方、「できれば転出したい」9.5%、「転出する予定である」1.7%で、これらを合わせた地域から転出する意向の人は11.2%です。

図 地域への今後の居留意向



オ 地域に住み続けたいと思う理由

地域に住み続ける意向の人の住み続けたいと思う理由は「先祖からの家や土地がある」が71.9%で最も割合が高く、次いで「長年住み慣れて愛着がある」63.3%の順で、この2項目の割合が高くなっています。その他では「自然環境が良い」39.7%、「人情味がある、人間関係がよい」27.8%などの順です。

カ 地域を転出したいと思う理由

地域を転出する意向のある人の地域を転出したいと思う理由は「老後の生活に不自由が」56.0%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」52.7%、「買い物や通院に不便」50.5%の順で、これら3項目が50%台と割合が高くなっています。その他では「自分の思う仕事がない、通勤に不便」33.0%、「農山村で活気がない」22.0%などの順です。

(4) 今後のまちづくりについて

ア 地域で大事にしたい、活用したい資源

地域で大事にしたい、活用したい資源としては「米」が53.3%で最も割合が高く、次いで「大草公民館」41.8%、「大草神楽」40.3%、「棲真寺」39.7%、「レンコン」36.1%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では「ホタル」30.6%、「桃」29.7%、「棲真寺公園」28.0%、「大草八幡神社」27.4%、「竜王山」24.9%などの順です。

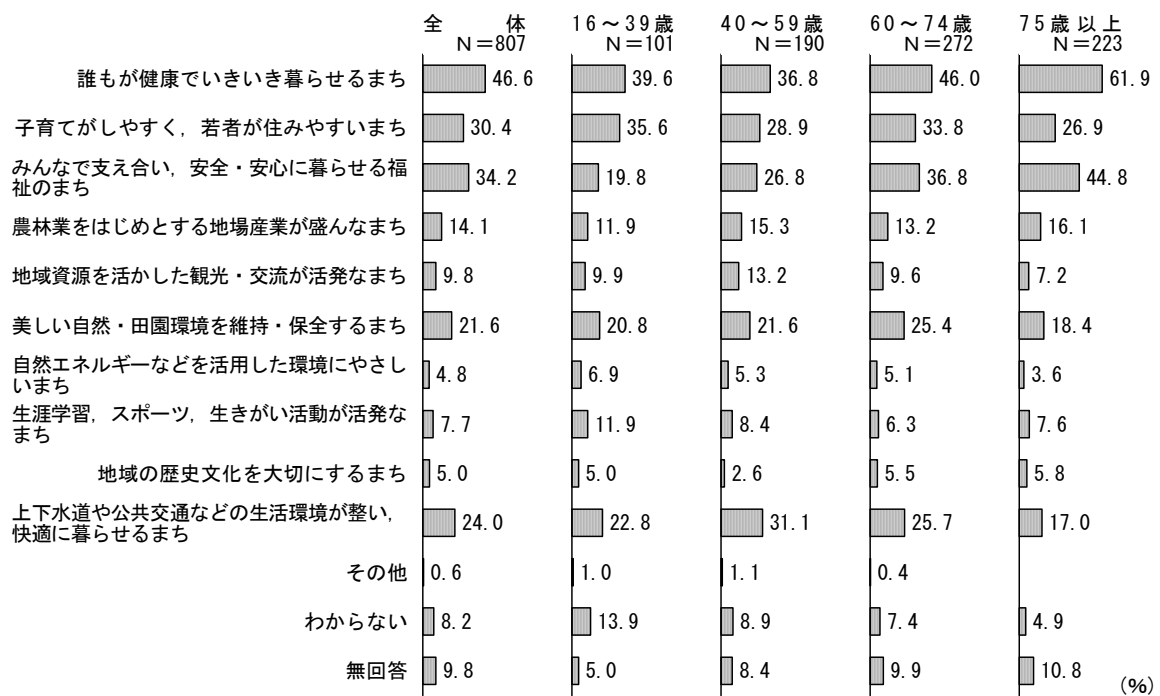
図 地域で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地域の将来像

地域の将来像については「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が46.6%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」34.2%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」30.4%の順で、これら項目が上位3位を占めています。その他では「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」24.0%、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」21.6%などの順です。

図 地域の将来像（複数回答：3つ以内）

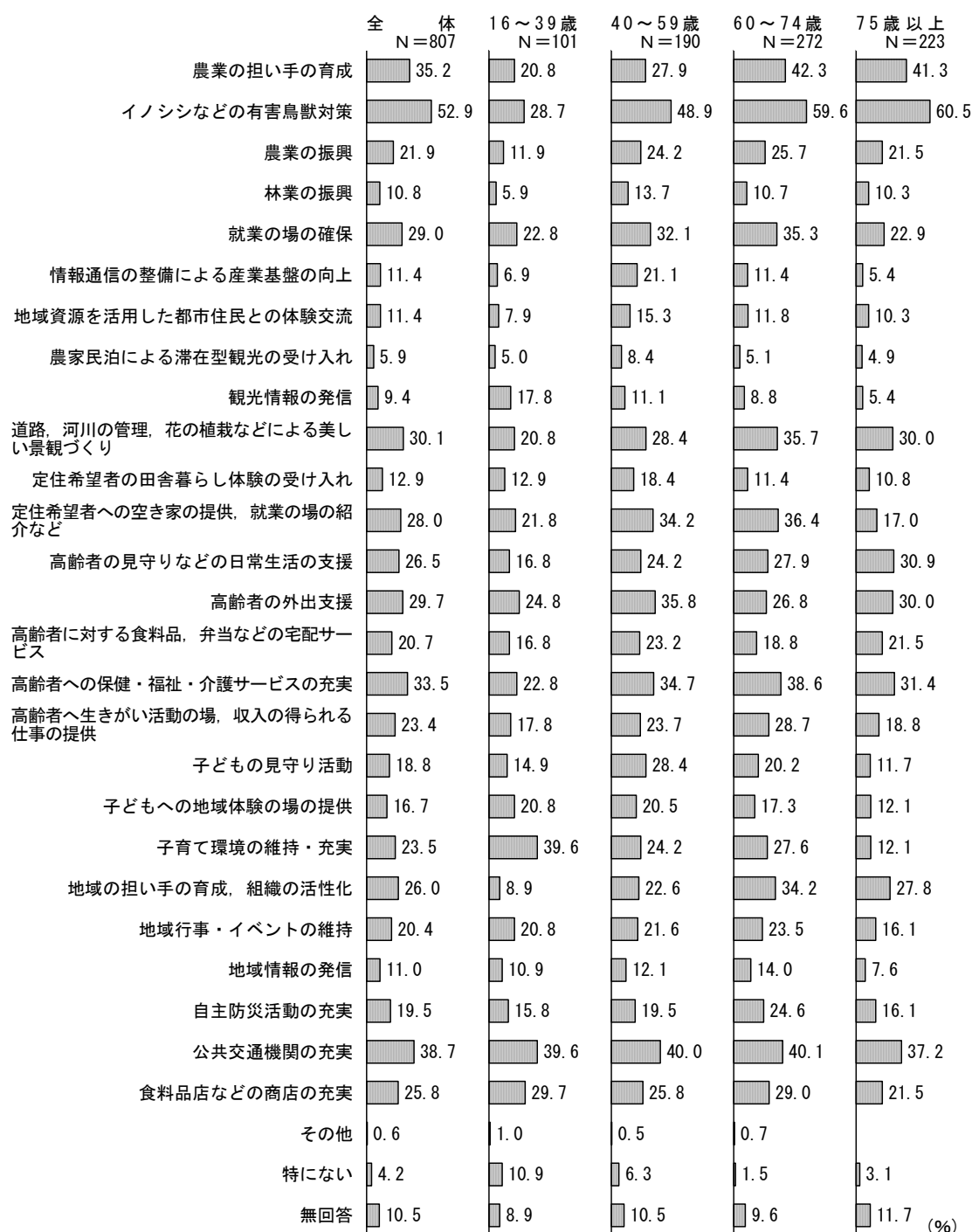


ウ 地域で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいこと

地域で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいことは「イノシシなどの有害鳥獣対策」が52.9%で最も割合が高く，次いで「公共交通機関の充実」38.7%，「農業の担い手の育成」35.2%，「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」33.5%，「道路，河川の管理，花の植栽などによる美しい景観づくり」30.1%の順で，これらの項目が上位5位を占めています。

その他では「高齢者の外出支援」29.7%，「就業の場の確保」29.0%，「定住希望者への空き家の提供，就業の場の紹介など」28.0%，「高齢者の見守りなどの日常生活の支援」26.5%，「地域の担い手の育成，組織の活性化」26.0%などの順です。

図 地域で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいこと（複数回答：いくつでも）

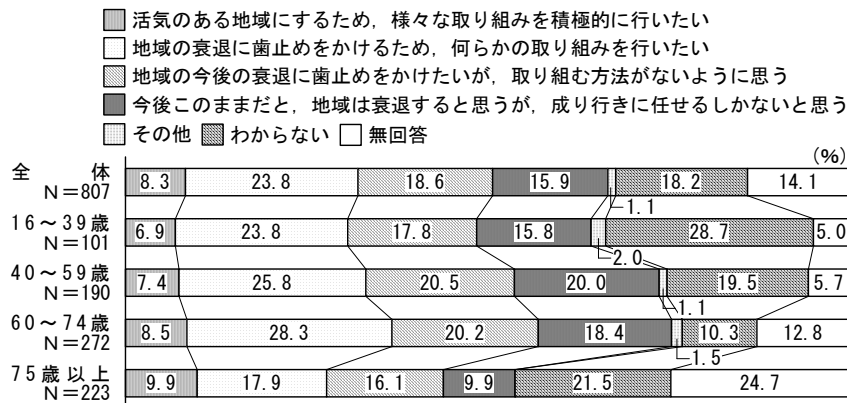


(5) まちづくりへの参加について

ア 地域の活性化に向けての取り組み意向

地域の活性化に向けての取り組み意向については「活気のある地域にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」8.3%、「地域の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」23.8%で、これらを合わせた地域の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は32.1%です。

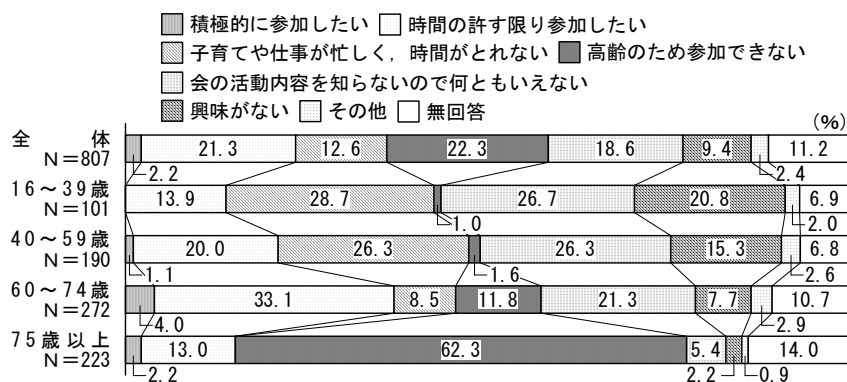
図 地域の活性化に向けての取り組み意向



イ 自治振興会活動への参加意向

自治振興会活動への参加については「積極的に参加したい」2.2%、「時間の許す限り参加したい」21.3%で、これらを合わせた自治振興会活動へ参加意向のある人は23.5%です。

図 自治振興会活動への参加意向



(6) 農地の現在の耕作状況と今後の耕作意向

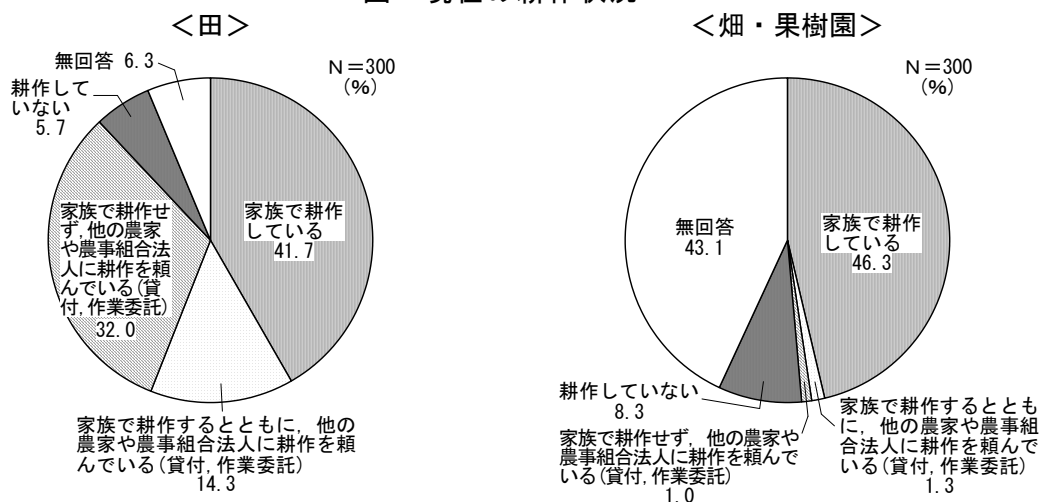
ア 農家の現在の耕作状況と今後の耕作意向

農家の世帯主の方にお聞きしました。

田の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」が41.7%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作せず、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」32.0%、「家族で耕作するとともに、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」14.3%などの順で、家族で農作業に関わっている農家が5割以上です。

また、畑・果樹園の現在の耕作状況は「家族で耕作している」が46.3%で、回答した人の大部分を占めています。

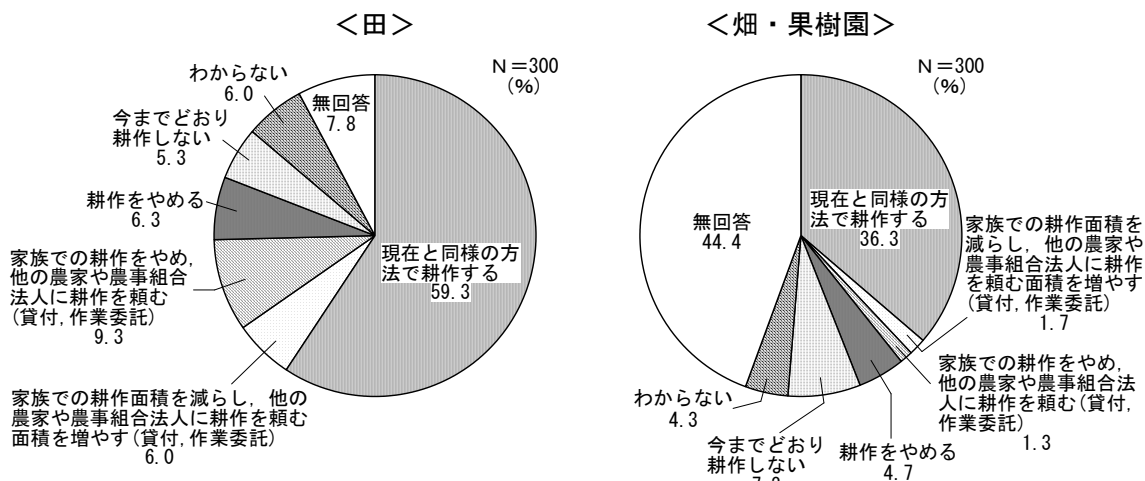
図 現在の耕作状況



田の今後の耕作意向は「現在と同様の方法で耕作する」が59.3%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作をやめ、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む（貸付、作業委託）」9.3%、「耕作をやめる」6.3%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」6.0%などの順です。

また、畑・果樹園の今後の耕作意向は「現在と同様の方法で耕作する」が36.3%で、回答した人の大部分を占めています。

図 今後の耕作意向

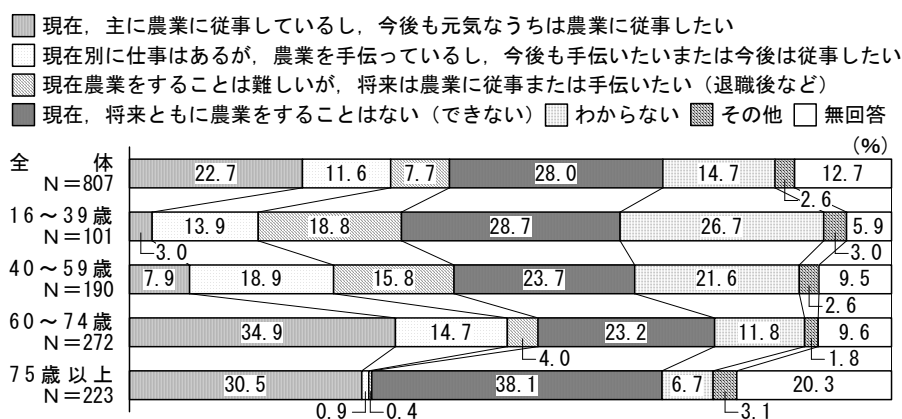


イ 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向

回答者の方全員にお聞きしました。

農業への現在の従事状況及び今後の従事意向は「現在、主に農業に従事しているし、今後も元気なうちは農業に従事したい」22.7%、「現在別に仕事はあるが、農業を手伝っているし、今後も手伝いたいまたは今後は従事したい」11.6%、「現在農業をすることは難しいが、将来は農業に従事または手伝いたい（退職後など）」7.7%で、現在農業に従事または手伝っている人が34.3%、今後農業に従事または手伝う意向の人が42.0%です。

図 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向

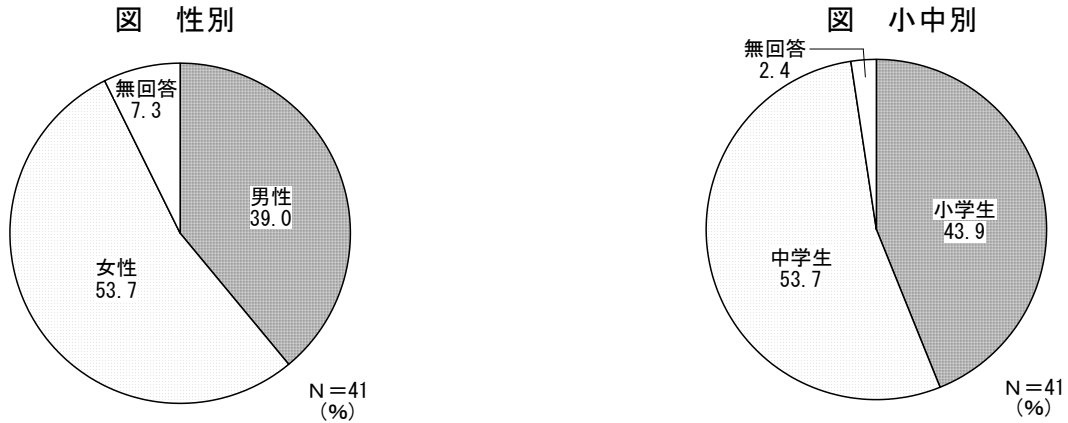


2 小中学生（小学4年生以上）

(1) 回答者自身について

回答者は「男性」39.0%、「女性」53.7%です。

回答者は小学生（4～6年生）43.9%、中学生53.7%です。



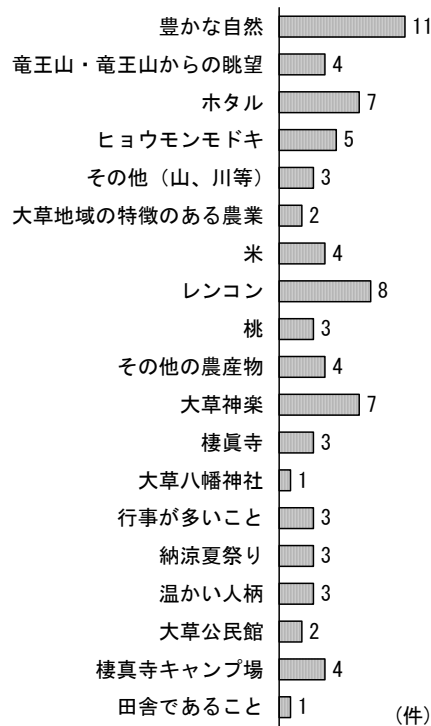
(2) 地域の住みよさと今後の居住意向

ア 地域のすばらしいところ

地域のすばらしいところ（自由記述）について答えた人は37人で、意見を項目別に整理すると78件でした。

その内容をみると、「豊かな自然」が11件で最も多く、次いで「レンコン」8件、「ホテル」及び「大草神楽」7件、「ヒョウモンモドキ」5件などの順になっています。

図 地域のすばらしいところ

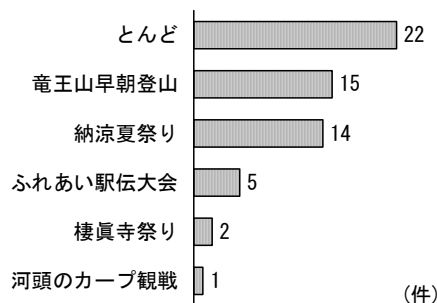


イ 好きな行事について

好きな行事（自由記述）について答えた人は34人で、その意見を項目別に整理すると59件でした。

その内容をみると、「とんど」が22件で最も多く、次いで「早朝登山」15件、「納涼夏祭り」14件、「ふれあい駅伝大会」5件などの順です。

図 好きな行事

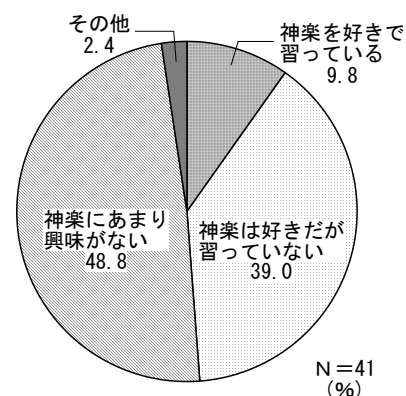


ウ 神楽への関心

神楽への関心をみると、「神楽を好きで習っている」と答えた人が9.8%です。また、「神楽は好きだが習っていない」が39.0%でした。

一方、「神楽にあまり興味がない」と答えた人が48.8%です。

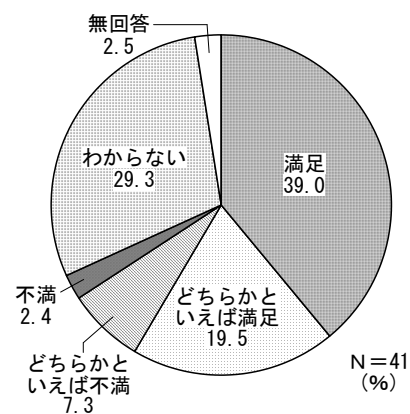
図 神楽への関心



エ 地域の住みやすさの評価

地域の住みやすさについては「満足」39.0%、「どちらかといえば満足」19.5%で、これらを合わせた地域の住みやすさに満足している人の割合は58.5%です。

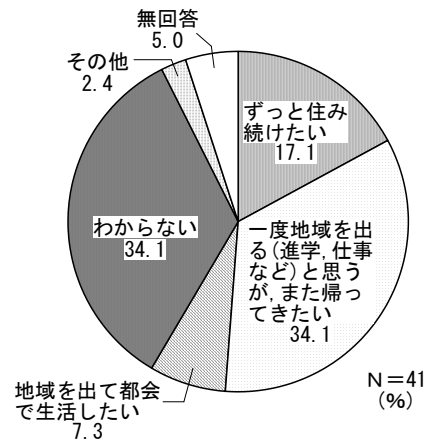
図 地域の住みやすさの評価



オ 地域への今後の居留意向

地域への今後の居留意向は「ずっと住み続けたい」17.1%、「一度地域を出る（進学、仕事など）と思うが、また帰ってきたい」34.1%で、これらを合わせた地域へ今後居住する意向の人は51.2%です。

図 地域への今後の居留意向

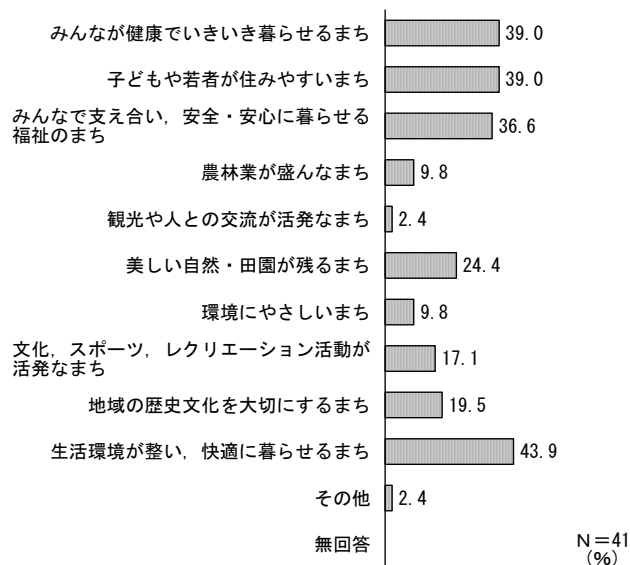


(3) 今後のまちづくりについて

ア 地域の将来像

地域の将来像は「生活環境が整い、快適に暮らせるまち」を挙げた人が43.9%で最も割合が高く、次いで「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」及び「子どもや若者が住みやすいまち」39.0%、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせるまち」36.6%の順で、これら4項目の割合が高くなっています。

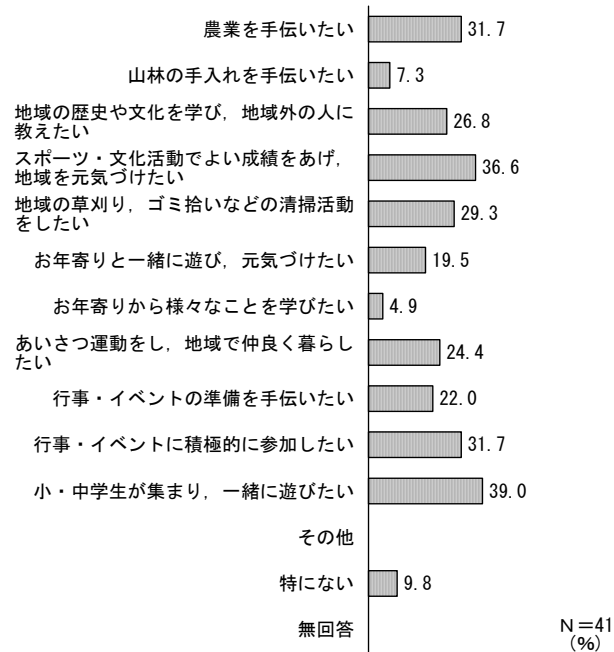
図 地域の将来像（複数回答：いくつでも）



イ 地域を住みよくするためにしたいこと

地域を住みよくするためにしたいことは「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」を挙げた人が39.0%で最も割合が高く、次いで「スポーツ・文化活動でよい成績をあげ、地域を元気づけたい」36.6%、「農業を手伝いたい」及び「行事・イベントに積極的に参加したい」31.7%の順で、これら4項目の割合が高くなっています。

図 地域を住みよくするためにしたいこと（複数回答：いくつでも）



3章 地域の魅力・資源と問題点・課題

1 地域の魅力・資源

大草地域のまちづくりに関するアンケート調査結果及び大草地域まちづくり意見交換会（ワークショップ）などでの意見を踏まえて、地域の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表 地域の魅力・資源

区分	魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的温暖な気候 ・豊かな自然，水質が良好な水，きれいな空気 ・四季折々に変化する景観（星，花木，山，雪，紅葉等） ・竜王山，天境峰（良好な眺望，登山等） ・ホタルの生息地 ・ヒョウモンモドキ，ハッチョウトンボの生息
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・大草神楽の継承活動（大草神楽保存会，大草神楽こども研究クラブ） ・盆踊り，虫送りなどの行事 ・棲真寺，安国寺，徳正寺，大草八幡神社の文化財，大草小学校奉安殿 ・行武氏関係遺物（細地区）などの史跡・遺跡 ・豊原のカヤ（下福田地区） ・民俗資料館，家庭で保存されている民具，農機具
産業資源	<p><農業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農事組合法人，中山間地域等直接支払組織などの担い手組織 ・イノシシ，シカなどの有害鳥獣駆除対策チーム ・ほ場整備済みの農地，向用倉農業団地（果実の生産団地） ・豊富な特産品（米，レンコン，イチゴ，桃，梨，ブドウ，リンゴ，ブルーベリー等） <p><観光></p> <ul style="list-style-type: none"> ・棲真寺（桜，蓮の花），棲真寺公園（広島空港大橋一帯の眺望） ・観光農園（白龍湖観光農園，向用倉農業公園・果実の森） ・棲真寺オートキャンプ場，パークゴルフ場，ゴルフ場 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な森林資源（木，竹，山菜等），マツタケが採れる ・企業が比較的多く立地
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な広域交通条件（広島空港，山陽自動車道，（主）本郷大和線（広島中央フライトロード）等） ・広島空港を利用して国内外の移動が容易，企業活動に適した条件 ・自家用車があれば便利な生活（病院，スーパーマーケット等に近い） ・高齢者の交通手段になっている大和ふれあいタクシー ・利用可能な空き家，休耕田
近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがある，温かい，親切的な近隣関係 ・住民の結びつきが強い（7月の西日本豪雨の際の助け合い等） ・住民相互の挨拶，声かけがある
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大草公民館での多彩な行事，サークル活動（百歳体操の実施等） ・高齢者の見守りサポート活動（民生委員・児童委員等） ・高齢者ふれあいサロン活動，高齢者への配食サービス（あじさい会） ・グラウンドゴルフなどのスポーツ活動 ・多彩な地域行事（納涼夏祭り大会，とんど，棲真寺まつり等）

図 地域の魅力・資源



2 地域の問題点・課題

大草地域のまちづくりに関するアンケート調査結果及び大草地域まちづくり意見交換会（ワークショップ）などでの意見を踏まえて、地域の問題点・課題を整理すると次のとおりです。

表 地域の問題点・課題

区 分	問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし、高齢者のみの世帯など支援の必要な高齢者のみの世帯の増加 ちょっとした困りごと（電球の交換、掃除等）を頼める人がいない 高齢者ふれあいサロンはあるが、男性の参加が少ない 高齢者が集う場が少ない、参加するための交通手段がない 公共交通機関が大和ふれあいタクシーのみで、運転免許証返納後の生活が不安 近隣の高齢者を自家用車で送迎したいが、事故時の不安があり、送迎できない 元気な高齢者の就業の場（収入が得られる場）が少ない
若者定住・U I ターン・子育て	<ul style="list-style-type: none"> 仕事、勤め先がなく、若者が定住しない 地域出身者との交流が少ない、U I ターン者が少ない 子どもが少なく、子育てしにくい スクールバス通学に伴い子どもと会う機会が減少した 子どもの運動不足、子どもの遊び場がない 子ども同士で遊ぶ機会の減少 （家が離れており、家族による送迎が必要） 子どもの減少に伴う子ども会活動の停滞
農林地・農林業	<ul style="list-style-type: none"> 農業後継者の減少、農地管理の困難化、休耕田の増加 有害鳥獣被害（イノシシ、シカ、サル、クマ、ヌートリア等）の増加 地産地消の仕組みがない （地域の農産物を非農家の住民が購入できない） 山林荒廃の進行
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> 観光・交流情報の発信不足、案内看板の不足 幹線道路沿いに立ち寄る場所がない ゴルフ場などへ来訪者が来ても、地域の案内が不十分で周遊しない 住民が地域の観光資源を知らず、聞かれても紹介できない
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域に安全な避難場所がない（7月豪雨での大草公民館の床上浸水） 未改修の小河川があり、平成30(2018)年7月の西日本豪雨で水害が発生 J R 山陽本線及びバス路線の利用が不便 大和ふれあいタクシーは便数が少なく、目的地まで時間を要する 上水道が未整備 空き家が増え、地域が寂れた印象 医療機関、商店、飲食店、レジャー施設が遠い 旧大草小学校が売却され、地域で利用できない
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事のP R 不足、マンネリ化 地域行事のスタッフ、参加者の減少に伴う盛り上がりの低下

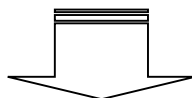
4章 まちづくり計画

1 地域の将来像

地域の将来像は、本地域の魅力・資源や問題点・課題などを踏まえて、“**安心し誇りを持って住める大草**”を掲げます。

図 地域の将来像

<地域の魅力・資源>	<地域の問題点・課題>
<ul style="list-style-type: none">・豊かな自然環境，四季折々の景観・ホテル，ヒョウモンモドキ，ハッチョウトンボの生息・大草神楽，盆踊り，虫送り行事・神社仏閣の文化財，史跡・遺跡，民具・農機具・農事組合法人などの担い手組織・農業が盛んで豊富な特産品・棲真寺，棲真寺公園，観光農園，キャンプ場，ゴルフ場などの観光・交流資源・企業が比較的多く立地・良好な広域交通条件，企業活動に適した立地条件・自家用車があれば便利な生活・利用可能な空き家，休耕地・住民相互の強い絆・公民館，スポーツなどの活動・高齢者ふれあいサロン，高齢者の見守り・多彩な地域行事	<ul style="list-style-type: none">・支援が必要な高齢者のみの世帯の増加，困りごとの増加・高齢者の交通手段の不足，運転免許証返納後の生活不安・高齢者の就業の場の不足・若者の地域外への流出・地域出身者との交流不足，UIターン者が少ない・子育てが難しい環境・農業後継者不足，有害鳥獣被害の増加，休耕地の増加・不十分な来訪客のもてなし・平成30(2018)7月の西日本豪雨で水害の発生，安全な避難場所の確保・公共交通機関の確保，生活環境の改善・空き家の増加への対応・地域行事のPR不足，マンネリ化・地域行事のスタッフ，参加者の減少，盛り上がりの低下

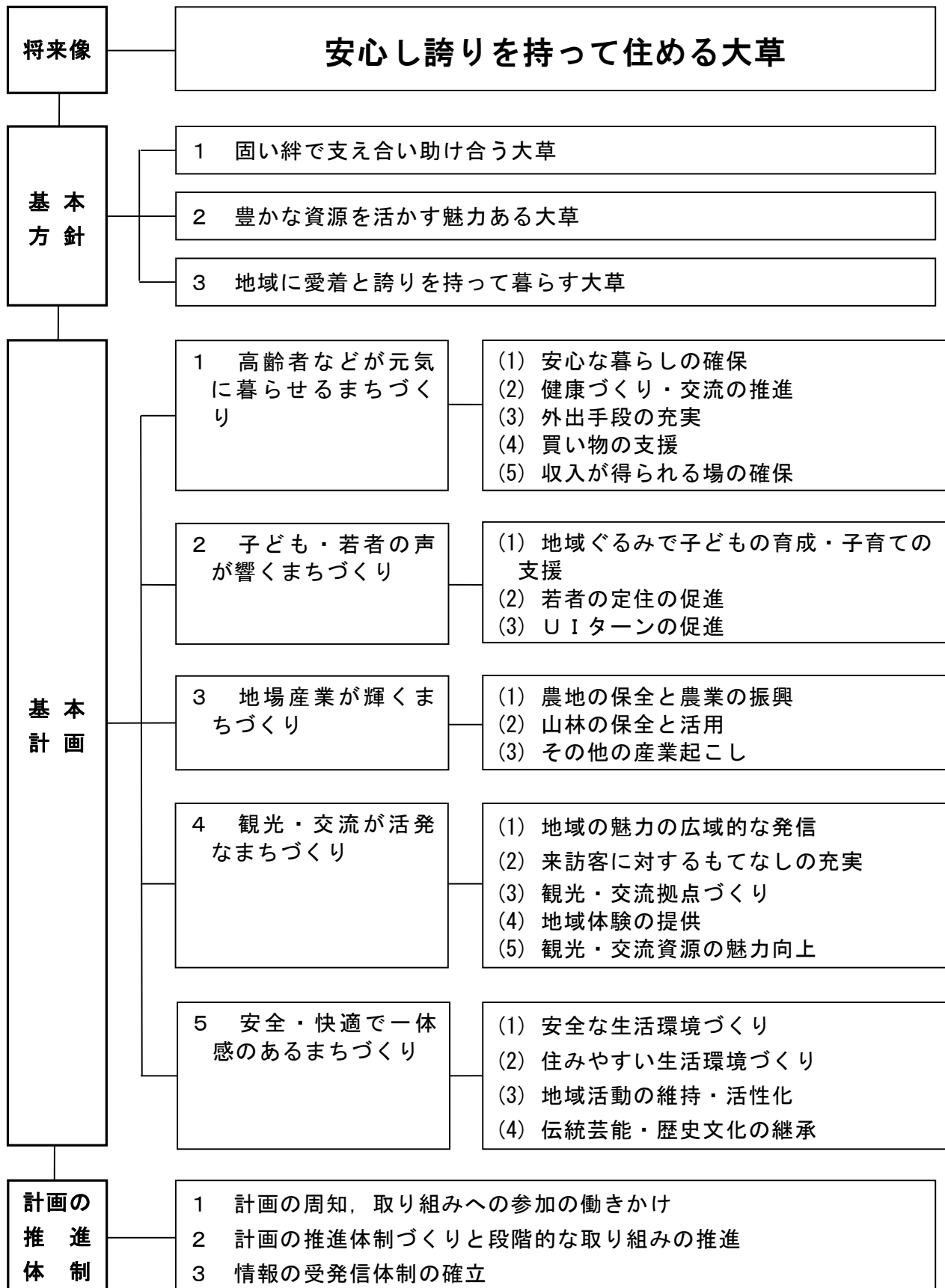


<地域の将来像>

安心し誇りを持って住める大草

地域の将来像の実現に向けたまちづくりの体系は次のとおりです。

図 まちづくりの体系



2 まちづくりの基本方針

大草地域の将来像を実現するために、3つのまちづくりの基本方針を掲げます。

1 固い絆で支え合い助け合う大草

高齢者のみの世帯などの生活及び子どもの育成・子育ての支援，地域活動の維持・活性化，伝統芸能の継承，歴史文化学習の推進などを進め，固い絆で支え合い助け合う大草の実現を目指します。

2 豊かな資源を活かす魅力ある大草

良好な広域交通条件，多彩な農産物，豊富な観光・交流資源などを活かし，農林業をはじめとする地場産業の振興と来訪客の誘客などを進め，豊かな資源を活かす魅力ある大草の実現を目指します。

3 地域に愛着と誇りを持って暮らす大草

地域への愛着と誇りを持つ子どもの育成と大人になってからの地域への定住，地域出身者，都市住民などとの交流の推進，空き家及び休耕田などの活用及びU I ターン希望者に対する相談・支援体制づくりによるU I ターンの促進などを進め，住民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持って暮らす大草の実現を目指します。

3 まちづくりの基本計画

大草地域の将来像及びまちづくりの基本方針を踏まえて、まちづくりの基本的方向とそれぞれの取り組み事項を掲げます。

取り組み事項の内容は、大草地域のまちづくりに関するアンケート調査結果、大草地域まちづくり意見交換会（ワークショップ）などにおける意見のうち、自治振興会をはじめとする各種団体及び住民が取り組み主体になる事項をとりまとめました。

1 高齢者などが元気に暮らせるまちづくり

(1) 安心な暮らしの確保

- ・高齢者などの実態調査を行うとともに、一人暮らし高齢者などの要望を聞き取りにより把握し、支援方策を検討します。
- ・支援を必要とする高齢者などに対して、家族との連絡を密にするとともに民生委員・児童委員、住民、社会福祉協議会などと連携して、見守りサポート活動の充実に取り組みます。
- ・地域の各種団体、住民と連携して「大草生活支援隊（仮称）」を組織し、高齢者などの日常的な困りごとに対する支援に取り組みます。

(2) 健康づくり・交流の推進

- ・各地区で行っているふれあいサロンのスタッフの確保に努めます。ふれあいサロンへの要望を把握し、健康づくり、趣味教養、スポーツなどの活動内容を充実し、男性をはじめとする参加者の拡大に取り組みます。
- ・冬場は広場でたき火しながら交流するなど、季節感のある交流の場づくりに取り組みます。
- ・大草地域全体の高齢者を対象とした常設ふれあいサロン（昼食付き）の開設に取り組み、高齢者だけでなく世代間の交流を推進します。

(3) 外出手段の充実

- ・大和ふれあいタクシーに対する要望を調査し、大和町自治振興連合会と連携して運行の改善（運行日、運行時刻、イベント時の運行等）と利用の促進に取り組みます。
- ・大和町自治振興連合会と連携して、AI（人工知能）を活用した新たな生活交通の運行システム事例などの収集に取り組み、外出手段の充実に活用します。
- ・高齢者を近隣住民が自家用車で送迎する仕組みづくりに取り組みます。

(4) 買い物の支援

- ・ J A・生協・コンビニなどと連携し、高齢者などに対する食料品、日用品などの宅配システムの充実に取り組みます。
- ・ 移動販売事業者と連携して、大草地域における移動販売車の定期運行システムづくり（ふれあいサロンの場への巡回等）に取り組みます。
- ・ 高齢者などの買い物に対する要望を調査し、定期的な買い物タクシー（三原市、世羅町中心部等）の運行に取り組みます。

(5) 収入が得られる場の確保

- ・ 高齢者が自家用で栽培している野菜などを販売して収入を得ることができるよう、農産物直売所の設置に取り組みます。
- ・ 山の駅（仮称）及び大草茶屋（仮称）の運営などにおいて、高齢者の知識・経験の活用に取り組みます。
- ・ 農事組合法人などの地元企業と連携して、高齢者の収入が得られる場の確保に努めます。

2 子ども・若者の声が響くまちづくり

(1) 地域ぐるみで子どもの育成・子育ての支援

ア 遊び場の整備

- ・休耕田などを整備して子どもの遊び場づくりに取り組みます。
- ・棲真寺オートキャンプ場周辺にストライダー（ペダルなし自転車）のコースづくりに取り組みます。

イ 交流の場の整備

- ・小学生同士，小学生と高齢者などの交流を推進するため，下校後に地域で学習及び交流ができる場づくりに取り組みます。

表 大草児童交流クラブ（仮称）の活動イメージ

区 分	内 容
開 催 日	・木曜日（早帰りの日）
開催場所	・大草公民館（屋内外）等
対 象 者	・小学生
活動方針	・子どもの自主的な行動を育てる，干渉せず見守る
活動内容	・授業の復習，宿題等の学習 ・屋内外での遊び，高齢者との交流（昔遊び） ・季節行事の開催
送 迎	・下校時のスクールバスで大草公民館へ送る ・活動後の迎えは，児童の祖父母等の家族が協力して実施
担 い 手	・大草児童交流クラブ（仮称）運営グループ
連携団体	・公民館，子ども会，小学校，高齢者ふれあいサロン運営グループ等

ウ 地域に愛着を持つ子どもの育成

- ・夏季休暇中のラジオ体操を，子どもだけでなく地域の大人が参加して盛り上げるとともに，近所づきあい，世代間交流の推進に活用します。
- ・子どもの地域への愛着を育てるため，歴史文化，郷土料理（柏餅，団子，よもぎ餅等），農林業，陶芸（定ヶ原の陶芸窯）などを体験学習できる場づくりに取り組みます。
- ・大草神楽の継承活動を行っている大草神楽こども研究クラブに対して，団員の募集，イベント開催時の応援などの支援に取り組みます。
- ・地域の子どもと大人の交流を深めるため，スクールバスでの登下校時をはじめとした声かけに取り組みます。

(2) 若者の定住の促進

- ・地域内外の企業のPR，特産品開発による就業の場の創出などにより，若者に対して大草地域や近隣地域への就職を働きかけます。
- ・婚活イベントの開催など若者の交流の場づくりを，三原市及び大和町自治振興連合会などと連携して取り組みます。
- ・地域への愛着を育てるため，若者へ歴史文化，郷土料理などを伝える場づくり（柏餅，団子，よもぎ餅等）に取り組みます。

(3) U I ターンの促進

ア 地域出身者との交流の推進

- ・地域出身者の名簿収集，定期的な交流，地域行事への参加の働きかけなどにより，地域出身者との継続的な交流を進めるとともに将来的なUターンへ結びつけます。

イ 移住希望者に対する相談・支援体制づくり

- ・地域出身者，都市住民などへ地域の魅力，住宅，仕事などの情報を発信し，移住希望者の掘りおこしに取り組みます。
- ・移住希望者に対して詳細な地域情報を提供するため，お試し居住の場及び移住相談員の確保などに取り組みます。
- ・移住希望者に空き家を斡旋するため，空き家の把握，空き家所有者の意向調査，賃借・売買意向のある空き家の家財整理の応援，空き家バンクへの登録の働きかけなどに取り組みます。
- ・移住希望者に空き家の斡旋と併せて，家庭菜園の提供及び農業指導に取り組みます。

3 地場産業が輝くまちづくり

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策の推進

- ・有害鳥獣対策の技術向上を図るため、有害鳥獣対策研修会、捕獲技術講習会などへの参加の支援に取り組みます。
- ・効果的な有害鳥獣対策を実施するため、地域を挙げての有害鳥獣駆除対策チームの設立及び一体的な駆除活動、共同防護策の設置などに取り組みます。
- ・駆除した有害鳥獣を食肉として活用することを検討し、駆除の推進に取り組みます。

イ 農業の担い手の育成

- ・地域の若者の農業への関心の醸成、JA及び農事組合法人と連携した農業技術研修会などの開催に取り組みます。
- ・農事組合法人と連携して地域外からの新規就農者の受け入れ、育成に取り組みます。
- ・担い手不足に対応した効率的な農地保全体・管理体制づくりに取り組みます。

<取り組み例>

- ・水田の大規模ほ場化、畔の拡幅、大型自動運転農業機械の導入。
- ・少人数で栽培可能な作物の導入（麦、大豆、もち麦、ヒマワリ等）。

ウ 多彩な特産品づくり，ブランド力向上の推進

- ・農業法人及び農家と連携して、米、レンコン、イチゴ、桃、梨、ブドウ、リンゴ、ブルーベリーなどの多彩な特産品生産の推進及びブランド力の向上とこれらの野菜・果実を活用した加工食品の開発（レンコン酢、レンコンパウダー等）に取り組みます。
- ・休耕田を活用して新たな特産品づくり（キャベツ等）に取り組みます。
- ・そばの栽培、手づくりそば屋の運営を検討します。
（予約制にして付加価値を高める等）

エ 農産物販売の推進

- ・来訪客や地域内の非農家が農産物を購入できるように、農産物直売所の設置に取り組みます。
- ・来訪客向けに特産品を地域内外の観光施設で販売する仕組みづくりに取り組みます。
- ・大草地域及び近隣地域と連携して、インターネットを活用した特産品の総合的なPR、販売体制づくりに取り組みます。
- ・農産物の販売を促進するため、農産物直売所、インターネット上で料理レシピを添付した販売に取り組みます。

オ 休耕田の活用

- ・休耕田を活用して市民農園を整備し、都市住民への貸し出しに取り組みます。
- ・休耕田を活用したイベントの開催に取り組みます。
(泥んこ大会：ドッジボール，バレーボール，ゴルフ，ソフトボール等)

(2) 山林の保全と活用

- ・森林組合などの関係機関と連携し、山林の再生計画づくりと計画的な植林に取り組みます。
- ・山林の保全と活用を図るため、都市住民と連携した保全活動，間伐材を活用した薪づくり，薪ストーブ導入の働きかけ，竹炭・竹酢の生産などに取り組みます。
- ・山林の保全への関心を高めるため，子育て世代などに対してシイタケ栽培，山菜採りなどの里山体験の場づくりに取り組みます。

(3) その他の産業起こし

- ・ジビエ肉を活用した特産品づくり，料理の提供に取り組みます。
- ・周辺環境の保全に配慮しつつ休耕田，里山などを活用した太陽光発電に取り組みます。
- ・現在使われていない定ヶ原の陶芸窯を活用して陶芸の里づくりに取り組みます。

4 観光・交流が活発なまちづくり

(1) 地域の魅力の広域的な発信

- ・インターネット（ホームページ、フェイスブック等）を活用した情報発信に取り組みます。
- ・マスメディアを活用してイベントなどの地域情報を発信し、知名度の向上に取り組みます。

(2) 来訪客に対するもてなしの充実

- ・来訪客の地域周遊を促進するため、大草地域の観光パンフレットを作成し、地域内外の観光・交流施設に配布するとともに、幹線道路沿いへ観光案内看板の設置に取り組みます。
- ・来訪客が地域の魅力を満喫できるように、季節、目的、滞在時間などに応じた周遊コースづくりに取り組みます。
- ・住民が来訪客に地域の魅力を紹介できるように、地域学習を推進するとともにガイドの育成に取り組みます。

(3) 観光・交流拠点づくり

- ・地域を通過する車両の立ち寄りや地域周遊を促進するため、(主)本郷大和線（広島中央フライトロード）が走る各地域と連携して、大和地域の新たな観光・交流拠点となる「山の駅(仮称)」づくりに取り組みます。

表 山の駅（仮称）の整備イメージ

区分	内容
場所	・(主)本郷大和線（広島中央フライトロード）大和南インターチェンジ周辺
機能	・情報案内、トイレ、休息、飲食・特産品等の提供 ・大草神楽等のイベント開催 ・その他考えられること ・遊具広場 ・EV充電施設 ・キャンピングカー向けの駐車場、入浴施設等

(4) 地域体験の提供

- ・季節に応じた多様な地域体験を提供するため、自然、農林業、歴史文化などを活用した地域体験メニューづくりに取り組みます。
- ・地域体験の提供に向けて、受け入れ団体の設立、体験を受け入れる担い手の確保、育成、観光協会などと連携した情報発信などに取り組みます。
- ・地域体験を滞在してできるように、民泊受け入れ体制づくり（研修会、先進事例視察等）に取り組みます。

表 地域体験メニューの例

区 分	内 容
春	・田植え，桜の花見，白竜湖花火inだいわ
夏	・ホテル観賞，納涼夏祭り大会 ・トウモロコシ等の野菜，桃，ブルーベリー等の果実の収穫体験
秋	・サツマイモ等の野菜，梨，ブドウ，リンゴ等の果樹の収穫体験
冬	・レンコン体験（掘り起こし，料理づくり，試食，お土産等） ・リンゴ，イチゴの収穫体験 ・初日の出早朝登山，餅つき
周年	・神楽体験 ・竜王山登山 ・空き家を活用した田舎暮らし体験（五右衛門風呂等）

(5) 観光・交流資源の魅力向上

ア 棲真寺の魅力の向上

- ・花の寺棲真寺の魅力の向上を図るため，棲真寺と連携して春の桜，夏の蓮に加えて秋と冬の花の導入を図るほか，休息施設の整備，棲真寺祭りの充実などに取り組みます。

イ その他資源の活用

- ・竜王山の魅力を高めるため，花木（桜，紅葉，カエデ，イチヨウ等）の植樹を行い，登山と花見が楽しめる場所づくりに取り組みます。
- ・天境峰の魅力を高めるため，良好な眺望を確保するための雑木の伐採，展望広場の整備などに取り組みます。
- ・平坂地区の直線道路を活用したイベント，大草地域の写真撮影会の開催など新規イベントづくりに取り組みます。

5 安全・快適で一体感のあるまちづくり

(1) 安全な生活環境づくり

- ・自主防災組織，大草消防団などと連携して地域防災対策の見直し（避難場所の配置，高齢者などの避難支援，ハザードマップの点検，井戸の保全等）に取り組みます。
- ・地域防災力の向上を図るため，三原市の支援制度を活用して地域防災活動のリーダーとなる「防災士」の養成に取り組みます。
- ・災害時の安全な避難場所の確保に向けて，旧大草小学校，徳正寺など高台にある施設活用の可能性について検討します。
- ・地域を流れる小河川の点検に取り組み，関係機関に河川改修を働きかけます。

(2) 住みやすい生活環境づくり

ア 地域内交流拠点づくり

- ・地域での幅広い交流を推進するため，住民が気軽に集い，交流できる憩いの場「大草茶屋（仮称）」の整備，運営に取り組みます。
- ・本施設は，住民の交流・休息，就学前の子どもの遊び，飲食・軽食の提供，日用品・農産物の販売などの場として整備します。

イ 公共交通機関の充実

- ・広島市と連絡する交通手段の充実を図るため，（主）本郷大和線（広島中央フライトロード）経由広島行の高速バス運行をバス事業者に働きかけます。
- ・通勤利便性の充実を図るため，JR白市駅及び河内駅への駐車場の拡充を関係機関に働きかけます。

ウ 空き家，休耕田の適正な管理，活用

- ・空き家，休耕田の所有者調査を行い，適正な管理を働きかけるとともに，賃借・売買意向のある空き家所有者への支援（家財の片付け，空き家バンクへの登録等）に取り組みます。
- ・空き家を活用して，商店，古民家カフェなどの経営を希望する移住者の募集に取り組みます。

エ 豊かな自然環境の保全

- ・ホタル，ヒョウモンモドキ，ハッチョウトンボなどの生息環境の維持など，豊かな自然環境の保全に取り組みます。

オ 旧大草小学校の活用

- ・避難場所，地域運動会の開催場所としての活用など地域のまちづくりに資する旧大草小学校の活用について，旧大草小学校を所有する民間団体と協議・調整を進めます。

(3) 地域活動の維持・活性化

- ・気軽に声をかけあい、支え合う近隣関係の維持・強化に取り組みます。
- ・大草地域全体の行事（納涼夏祭り大会，生涯学習発表会，ふれあい駅伝大会等）の魅力化，参加者の拡大に向けて，内容の見直し（PRの強化，子ども・若者が主役になる企画の充実，高齢者等の送迎等）に取り組みます。
- ・多くの住民が参加して地域の一体感を醸成していた地域運動会の復活に取り組みます。
- ・参加者が減少しているとんどの開催方法の見直し（とんどの統合，地区外からの参加者募集等）に取り組みます。
- ・担い手の減少，高齢化の進行に対応した草刈り作業の見直し（場所の限定，作業チームの設立・委託等）に取り組みます。

(4) 伝統芸能・歴史文化の継承

ア 伝統芸能の継承

- ・大草神楽継承活動の活性化を図るために，継承団体と連携して神楽会館の整備，神楽体験会の開催などに取り組みます。
- ・盆踊り，虫送りなどの行事の継承に取り組みます。

イ 歴史文化学習の推進

- ・地域の歴史文化を学習するため，神社仏閣の紹介及び案内マップの作成に取り組みます。
- ・民俗資料館を充実して，明治以降の生活を偲ばせる民具，農機具等の収集，保全，展示に取り組みます。
- ・神社仏閣，民具，農機具等の資源を活用して，健康づくりウォーキングや歴史文化学習イベントの開催に取り組みます。特に，子育て世代の参加を促進するため，休日にイベントを開催するほか，子どもが関心を持つ企画の充実に取り組みます。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

- ・住民へあらゆる機会を通じて「おおぐさ夢プラン」を周知するため，概要版の全戸配布，各種団体の会合などで「おおぐさ夢プラン」の説明を行うほか，今後のまちづくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・まちづくりへの当事者意識を住民一人ひとりが持つように働きかけるとともに，住民の幅広い参加によるまちづくり実行体制を確立します。特に，女性，若者の積極的な参加を働きかけます。
- ・本地域の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）に取り組みます。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地域の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

＜重点的に取り組む事業の候補＞

- ・高齢者声かけ・困りごと支援事業
- ・大草児童交流クラブ（仮称）運営事業
- ・大草UIターン促進事業
- ・次世代農地管理・特産品づくり事業
- ・山の駅（仮称）づくり事業（来訪客への案内，休息，飲食等の提供）
- ・大草観光・交流推進事業（情報発信，地域体験の提供等）
- ・大草茶屋（仮称）づくり事業（地域住民が気軽に集う場）
- ・大草地域運動会復活事業

ウ 取り組みへの多様な担い手の確保，人材育成

- ・住民，各種団体，企業などとの連携を強化します。
- ・地域出身者，都市住民，大学生などの参加と応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会・研修会などへの派遣，講演会の開催，先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地域内への情報発信

- ・「大草自治振興会だより」の充実に取り組みます。
- ・若者世帯などに対し、インターネットを活用した情報の発信に取り組みます。

イ 地域外への情報発信

- ・インターネットを活用した大草地域の情報発信体制づくりを行い、地域出身者、都市住民、大学生などに対して地域の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家情報などを発信することにより、地域への関心を高めるとともに交流を推進します。
- ・大和町自治振興連合会のホームページ（だいわがいど）を活用して、大草地域の情報発信に取り組みます。

ウ 人材の確保

- ・大草地域のホームページなどを管理、活用できる人材を確保、育成し、タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

日程	委員会等	協議事項等
平成30(2018)年 4月23日(月)	将来の大草地域を創 る会の設立	・設立総会
5月31日(木)	第1回将来の大草地域 を創る会	・計画策定の進め方について ・アンケート調査、まちづくり意見交換会 (ワークショップ) などについて
6月27日(水)	第2回将来の大草地域 を創る会	・計画策定の進め方について ・アンケート調査の内容、実施について ・まちづくり意見交換会(ワークショップ) の実施について
10月1日(月)～ 10月14日(日)	住民(16歳以上)、 小中学生(小学4年 生以上) アンケート 調査	・アンケート調査票の配布・回収
10月14日(日)	第1回大草地域まち づくり意見交換会 (ワークショップ)	・地域の資源・魅力と活用のアイデア ・地域の問題点・課題と解決方法 ・まちづくりで関心のあること、取り組み たいこと
11月17日(土)	第2回大草地域まち づくり意見交換会 (ワークショップ)	・テーマ別の資源・魅力と問題点・課題、 取り組みのアイデア
12月15日(土)	第3回大草地域まち づくり意見交換会 (ワークショップ)	・アンケート調査結果の報告 ・重点的に取り組みたいことの検討とその 事業計画の作成
平成31(2019)年 2月3日(日)	第3回将来の大草地域 を創る会	・計画素案の協議、修正
2月28日(木)	第4回将来の大草地域 を創る会	・計画案の協議、承認 ・今後の取り組みについて